



『鳥の行動・生態の進化を探る』

私は、鳥の繁殖生態や音声コミュニケーションについて研究しています。単に「どうなっているのか」を調べるだけではなく、環境に応じてどのように変わっていくのかについて、進化の視点から解明することをめざしています。

◀ウグイス。個体識別用の足環が装着されている

●人がもちこんだ動物の影響

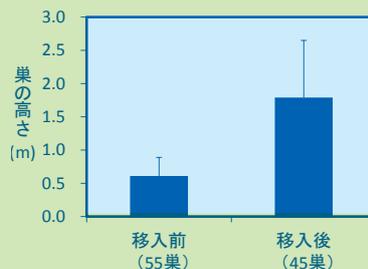
日本の多くの島では、ネズミやハブを駆除しようと、人の手によってイタチやマングースがもちこまれました。これらの肉食獣は数が増え、いろいろな生きものを襲っています。アマミノクロウサギ、オカダトカゲ、アカコッコなど島の貴重な動物が犠牲となり、生息数が著しく減ってしまったものもあります。



実験で設置した巣にやってきたイタチ。三宅島にて (Hamao et al. 2009, Ornith Sci 8: 139より)

●鳥の巣づくりが変わった

伊豆諸島の三宅島でも1980年代にイタチが放され、多くの鳥が減ってしまいました。そして、それだけではなく、生き残った鳥の行動も変化していることがわかりました。ウグイスの巣を調べたところ、イタチがもちこまれる前よりも、ずっと高い場所に作られるようになっていたのです。卵やヒナの捕食を避けるための変化だと考えられます。



三宅島におけるイタチ導入前(1970年代)と後(2000年代)のウグイスの巣高 (Hamao & Higuchi 2013, Wilson J Ornithol 125: 426より改変)

●生態系全体に及ぶ影響

高い所に巣をつくるようになったウグイスは、空から巣を襲うカラスや托卵をするホトトギスに巣が見つかりやすくなってしまいます。イタチの影響は予想外に多くの生物に及んでいきます。人がもちこんだ動物は、生態系全体に影響を与えてしまうことがわかります。



ウグイスの巣とヒナ

研究者に
聞いてみました!

1) 専門は何ですか?

行動生態学です。長く親しんでいて調査の技法にも通じている鳥類を扱っていますが、植物や昆虫など他の生物についても関心をもっています。

2) 研究者になろうと思ったきっかけは?

論文をいくつか書くうち、研究が(「鳥が」ではない) クレージーに好きなのだと思っ

き、研究職につこうと思いました。

3) 最近の研究活動で、最も興味深かった出来事は何ですか?

ウグイスの巣の高さの変化です。長年、各地で調査をしてきましたが、三宅島の巣はあまりに高い。調べてみると、イタチ導入前は普通の低さで、20年ほどの間に急激に生態が変わっていたのです。

4) 研究者になりたい方に一言アドバイスを!

研究が(あるいは対象の生物などが)非常

に好きで、そのために困難をいとわない気持ちがあれば資格あります。外国語や統計の勉強も、不便な暮らしやきつい作業も、好きならば楽しみながらやれるでしょう。積極的にいろいろな経験を積んで下さい。

